



活躍の現場から



● 地域の国際化と多文化共生社会の実現を目指して
—— 三重県志摩市

伊勢志摩サミットのレガシーの地

志摩市は、2016年のG7サミットの開催地として、素晴らしい自然環境、豊かな食、歴史・伝統文化などの多くの魅力が広く発信されました。

この成果を一過性のものとせず、経験を生かした取り組みが求められていました。

外国人の視点から地域の国際化

今年、本市を中心として開催される予定で進められていた「第9回太平洋・島サミット (PALM9)」が、テレビ会議方式への変更となりましたが、受け入れ態勢を整備するなど、地域のさらなる国際化のきっかけになりました。

訪日外国人（インバウンド）などへの対応のため、2019年にアメリカからリュウ・ベンジャミン氏、タイからチャブカン・チッタラポン氏の国際交流員2人を配置しています。国際社会に対応できる人材の育成や市民の国際相互理解の推進などのため、幼稚園・学校への派遣や、事業者向けの「おもてなし英会話教室」を開催するなど、地域の国際化と多文化共生社会の推進に貢献しています。

例えば、外国人観光客にもわかりやすい「英語メニューを作しましょう！」のホームページは、商工会や観光協会の加盟団体で共有され、地元メディアでもその取り組みが取り上げられました。この取り組みは、外国人観光客のみならず市内在住外国人にもわかりやすいことから、多文化共生社会の推進に貢献するものとなっています。

商工会からの依頼で実施している「おもてなし英会話教室」は、接客のフレーズから地元の食材や郷土食、伝統文化の紹介なども学べるものとなっており、事業者のみならず市民の参加希望者もあり大変好評を得ています。



おもてなし英会話教室

こういった取り組みは、ポスト・コロナのインバウンド需要への対応に資するものとして内外から評価されています。

サミット準備・インバウンド対応

テレビ会議方式への変更となりましたが、「第9回太平洋・島サミット (PALM9)」の受け入れ態勢を整備するため、「太平洋・島サミット市民会議」へ国際交流員が参画し、助言・提案をしたほか、島嶼国^(注1)の1つである駐日サモア大使への表敬訪問時には、三重県と本市の担当部局に同行し、通訳業務を行いました。



サモア大使への表敬訪問



タイ旅行会社向け訪日オンライン商談会



志摩 CIR カフェ

インバウンド対応については、新型コロナウイルス流行前は、市内の観光地への海外メディアの取材時に同行し、通訳やサポートのほか、外国人観光客へのインタビューも行いました。最近では、JNTO（日本政府観光局）主催のタイ旅行会社向け訪日オンライン商談会において、通訳を行い、海外への情報発信の一翼を担っています。本市が力を入れている観光振興政策につながるような取り組みにも尽力しています。

また、本市の魅力を発信するために伝統文化や風景、食材などの外国人が魅力を感じられるような素材に対して自ら取材し、市の観光ホームページや SNS など積極的に発信しています。

職員の意識と知識の向上にもひと役

地域の国際化をスローガンにし、地域の方々の国際理解・多文化共生に対する意識醸成だけではなく、市職員の国際感覚の醸成・語学力向上にも国際交流員が活躍しています。

職員が気軽に参加できるように、国際交流員自らが企画した「志摩 CIR カフェ」は、窓口でのあいさつなどの市役所業務で想定されるシーンに必要なフレーズを若手職員中心に学んでいます。参加している職員からは、「学校で学んだ英語の表現が、実はあまり使われていなかった。」「実践の機会が少ないスピーキングの実習ができて良かった。」などの感想をいただくなど、

満足度の高い研修となっています。

おわりに

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、これまでどおり国際交流が行えない状況が続いています。その中でも、地域の方々に外国文化や国際交流を身近に感じていただけるような工夫や、在住外国人の方々にも安心して暮らしてもらえるように、ハザードマップや、国民健康保険のしおり、ごみカレンダーなどの必要な情報の多言語化、ポスト・コロナに向けての海外への情報発信など、熱心に活動している国際交流員の2人に、大いに感謝するとともに、益々の活躍を期待しています。

注1 領土が島で構成されている国のこと。



多言語化に取り組んだパンフレット類の一部